

皆さんの大切な土地を守る 地籍調査を 進めています



▲4月に、新たに豊岡市独自のパンフレットを作成しました

地籍調査とは、一筆ごとの土地について、その所有者、地番、地目を調査し、境界（筆界）の位置と面積に関する測量を行い、その結果を地図および簿冊に作成することをいいます。調査は、準備から完了まで1カ所おむね3年かけて行います。

地籍調査の実施状況や、土地境界、権利関係について調査を実施するまでの留意点のほか、市民の皆さんからの質問などを「一問一答」方式でまとめてみました。

《問合せ》地籍調査課（日高総合支所内） ☎21-9064



市では、地籍調査事業を平成18年度から開始し、平成20年度までに豊岡・日高地域の約3,200筆の立会調査を終えました。

今年度から竹野・但東地域にも立会調査に入り、新たに城崎・石地域での調査準備に着手するなど市内全域で事業を進めます。

市内すべての土地を調査するにはまだまだ時間がかかりますが、土地にかかるデータを新たに記録していく大事な調査ですので、早めに次の準備をお願いします。

■自分の土地を確認しましょう

- ①土地の境界をご存じですか？
また、境界に杭がありますか？
- ②土地の売買や相続されたときに登記が済んでいますか？
- ③境界の見通しは良いですか？

特に山林は管理されていますか？
地籍調査は、土地所有者の皆さんと市が一体となって進めていく調査です。日ごろの土地の適切な管理をお願いします。

一問一答

●なぜ今調査を行うのですか？

法務局で保管されている土地登記簿や公図は、大半が明治時代に作成されたもので、面積や境界形状が実際と違う場合があります。また、高齢化により特に山の境界確認のできる人が少なくなりつつあります。

そこで、地籍調査を行い、皆さんの土地を正確に調査・測量します。その結果を記録保存することにより、境界争いの防止や、土地取引の円滑化、万一の災害復旧などに役立てようとするものです。

●実施方法・立会い日・参加者などは？

市が設定した調査日に、土地所有者と地元の協力者、委託業者（土地家屋調査士）と市が立会いの下、土地の境界に杭を打ち、測量を行って面積を確定します。

●実施した後は？

境界杭を数値データで市が管理しますので、災害などで境界杭がなくなっても復元が可能です。また、一般的には、土地売買や分筆登記の際の隣接地の立会いが不要となります。

●費用負担は？

個人負担はありません。



目指せ! 山陰海岸ジオパーク

シリーズ6

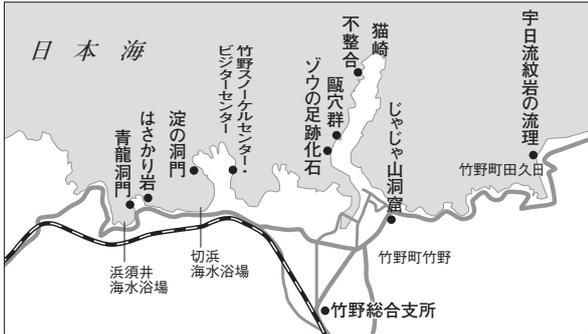
竹野海岸

市では、京都府・兵庫県・鳥取県の民間団体や行政機関と連携し、竹野海岸、日和山、玄武洞公園などの山陰海岸国立公園や神鍋高原などを中心としたエリアを「山陰海岸ジオパーク」として、世界ジオパークへの認定を目指しています。このジオパークについて、市のジオパーク普及啓発専門員(北但層群化石研究会代表)の三木武行が、シリーズで紹介しします。

《問合せ》観光課 ☎21-9016

海岸めぐりコース

<竹野海岸地図>



竹野海岸には、県指定の天然記念物が3カ所にあります。1カ所目は、竹野町切浜にある、カニが親指の爪でものを挟んだような形の「はさかり岩」です。この辺り一帯は、大きな礫岩を含む凝灰角礫岩が広く分布しており、北但層群八鹿層に分類されています。切浜海岸の北に行くと、高さ約15メートルの「淀の洞門」があります。山陰型花崗岩の上に堆積した凝灰角礫岩が、断層や岩脈の貫入によって破



▲はさかり岩

砕され、日本海の荒波によって浸食されてきた多くの洞門の1つです。東隣の大浦海岸には、環状の竹野スノーケルセンター・ビジターセンターがあり、山陰海岸の調査保全と子どもたちの教育活動の場として利用されています。次に県の最北端にある「猫崎半島」に行ってみましょう。漁港の北から猫崎半島の海岸線には、波と石によって砂岩や泥岩が侵食された海食台が続きます。この海食台には、2カ所目の天然記念物の「波食甌穴群」があります。甌穴は、大きいもので、直径70センチメートル、深さ50センチメートル程度です。



▲甌穴群

ここでゾウやシカの足跡化石、タニシ、淡水魚の頭骨、植物の化石も見つかりました。発見されたゾウの歯の化石から、このゾウの化石は、日本でも数例目となる珍しいもので、「ステゴフロドン」という仲間ということが分かりました。日本列島がまだ中国大陸の一部であった約2千万年前の環境を想像してみるのも面白いでしょう。この海食台の北には、柱状節理が見られる照来層群の宇日流紋岩が、北但層群の砂岩層に斜めにかぶさり、見事な不整合(2つの地層群が斜めに接している)の壮大な景色が見られます。そして、3カ所目の天然記



▲ゾウの足跡化石

このように、竹野海岸では、日本列島が中国大陸の一部であったころの花崗岩や淡水湖にできたゾウやシカの足跡、その後の火山活動により、日本列島が隆起してきたころの流紋岩の壮大なシナリオが見られます。



▲宇日流紋岩の流理